

「INCH(祭り)ライブ2024」開催しました 10.5

自然文化誌研究会会員 佐々木 正久 (youtuber の卵・茨城県在住)

10月5日午後、いつものキャンプ場。小雨の中、B棟に音響機器や照明機材、楽器、譜面台などが運び込まれています。14年目のINCHまつり(ライブ)の準備です。コロナで何年かの中止はありましたが、昨年から再開されました。キャンプ場は人里から離れているので、少々の音量では(結構な大音量でも)近所迷惑にはなりません。

午後4時、主催者の代表理事の中込卓男さん(以下、中込メさん)の歌でライブの開始です。最初の歌は谷川俊太郎さんの詩から。自分が40歳のときに30歳違う君と生きている幸せを歌ったもので、70歳になっても一緒にあくびをしたいというものです。中込メさんも40歳の時に娘さんが10歳。もう数年で70歳になるということでその思いをこめてました。

次はトランペット3重奏(トランペット集団「奏」の有志)です。トランペットだけのアンサンブルは結構珍しいです。7~8人が所属しているそうですが、今日は3人での参加です。ラピュタの「鳩と少年」で始まり、「アメージンググレース」や「アイガットリズム」と多様な曲の演奏が続きます。

次は「二人チョークス」、中込メさん再び登場です。歌もとても上手ですが、ハーモニカで「ジョージアオンマイマインド(我が心のジョージア)」や「スマイル」など素晴らしい演奏も披露してくれました。後で聞いた話ですが、お客のアンコールが早すぎて(用意した曲がまだあるのにアンコールがかり)、1曲減らしたということです。こんなことは初めてだと言っていたのですが、演奏者とお客の距離の近さ故ですね。

次は自然文化誌研究会理事の自称キムタク(鈴木英雄さん)の弾き語りです。最初の曲は「防人の歌(さだまさし)」です。歌える人は一緒にということなので、つい参加しましたが一度も一緒に歌ったことがないのにデュエットは無謀です。歌い出しのタイミングが合わず、ちょっと迷惑をかけてしまいました。他にも中島みゆきの「世情」、水越恵子の「Too far away」など60歳代には懐かしい1970年代後半のフォークソングを披露してくれました。キムタクはベースで他のバンドにも参加しています。

続いて「ふろるでるそる」です。今回最大の5人のバンドです。三線とトランペットが入るのが珍しいです。1曲目はBEGINの「海の声」、沖縄の香りのする歌です。今年大ヒットした虎の翼の「さよならまたいつか!」など朝ドラのテーマソングなどを披露してくれました。ということで第一部は2時間ほどで終了です。

夕食の後、8時ごろから第二部です。歌いたい曲を言うと、ギターなどが演奏してくれる生演奏でのカラオケです。第二部がやりたくて参加している人も多いようです。夕ご飯でお酒も入っているので大騒ぎです。こんな楽しいライブは見たことがありません。私は歌いまくって満足して早々と寝てしまったのですが、夜半までみんなで歌いまくっていたそうです。写真は第二部の様子です。

ライブ(第一部のダイジェスト)をyoutubeにアップしました。→

<https://youtu.be/H5R8z6SADvQ>



追伸 来年はINCHが50周年(INCHまつりは15周年)を迎えるので、イベントが開かれます。詳細はこれからですが、ぜひご参加ください。 詳細はHP <http://www.npo-inch.ppmusee.org/index.html>

